

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状】**

○ 児童について

明るく素直で活発な児童が多い。肯定的な指導を行うことで、朝会や集会などでの集団行動時の規律が向上してきている。低学年での指導を手厚くすることで、学習規律や生活規律が整った学年・学級の構築が図れてきている。さらに多様な教育活動を通して、心を育て自己肯定感を高めることが必要である。

○ 教職員について

教職員全員で知恵を出し合い、学校経営、学年経営の視点で具体策をもって仕事を遂行していく体制が確立された。ベテランから若手までの全員が本校の諸課題について強い危機意識と改善意欲をもって「心は一つ」を合言葉に解決している。今年度もOJT制度、主任教諭研修制度を活用しながら若手教員からベテランまでそれぞれの力量に見合った人材育成を行っていく。

○ 家庭・地域について

学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。さらに家庭に学校教育への理解と協力を求め連携していく必要がある。地域は、学校の成果を評価し、学校への期待感が高まっている。

重点的な取組事項－1 学力向上

○数値目標 平成28年4月区学習定着度調査 通過率77.6%

○実施結果 平成28年4月区学習定着度調査 通過率79.2%

通過率の数値目標を達成できた。SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年面接、個人面接を実施し、児童個々に対する方策を練らせた。中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。管理職による漢字検定や九九免許講習で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。教室環境スタンダードで全教室の掲示を統一した。表現力を高めるために「語彙」を増やす必要がある。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

- ・交流研修で保育園での「鉛筆指導」、「平仮名指導」研修を実施し、「平仮名が読める。」「正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける。」園児を育てた。
- ・給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校の授業改善に寄与できた。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上達成

平成27年度まで研究を深めた「算数」で、全教員が児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開ができるようになった。平成28年度は研究教科を「国語」とし、「自ら考え学び合う児童の育成」をテーマに行った。まとめの言語活動を意識した授業スタイルができるようになってきた。他教科においてもベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって真摯に取り組み、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 96% 明るく楽しい学校 97%

全校朝礼での講話と多くの表彰によって、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力している。QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。データに基づく声かけや励ましや学級に合った手立てによって、児童の自己肯定感が高まってきている。朝のあいさつ運動は、児童の自主的な活動として行われており、開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、サンクスウィークスなどの取組を行った。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

重点的な取組事項－1 学力向上

○成果目標 平成29年4月区学習定着度調査 通過率77.2% (区前年度平均)

○目標実現に向けた取組の概要

①個の学力状況の把握・分析・対策

- ・担任引継ぎ会議(春季休業中) ・区学力調査の活用 4月 10月 2月
- ・学力分析 ・対策会議(定期的) ・九九検定 ・そだち指導 ・MIMの指導

②既習事項の習熟の場

- ・パワーアップタイム(朝学習) ・花保ステップタイム ・土曜授業 ・夏季学習教室

③放課後学習の実施 ・習熟度に見合った放課後個別指導

④家庭学習の充実 ・家庭学習カードの活用 ・秋田県式家庭学習の実施

⑤環境整備 ・花保教室環境スタンダードの企画実施

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○成果目標

保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

○目標実現に向けた取組の概要

①花保中学校

- ・学力定着度の情報交換 ・授業研究の実施 年間6回 ・生徒会等の相互交流

②保育園・幼稚園

- ・小学校スタートカリキュラムの1年生全学級実施 ・交流研修会 ・連携園との交流を一層深める。
- ・給食・図書室体験 ・1年生との交流集会

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○成果目標 教師一人一人の指導力の向上

○目標実現に向けた取組の概要

①資質向上

- ・管理職の指導と助言 ・校長レクチャー ・若手教員養成塾の実施10回
- ・OJTガイドラインに基づいた自己申告書の作成と面接の活用 ・転入及び新規採用教員研修の実施

②指導力・授業力の向上

- ・学年共通指導 ・足立スタンダードの習得 ・管理職の指導と助言 ・区小研全員参加
- ・授業力の向上を目標とした研究授業と相互評価 ・管理職と連携した区教科指導専門員の指導

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○成果目標 児童一人一人の心の成長

○目標実現に向けた取組の概要

①心の教育・道徳授業・いじめ防止

- ・全校朝会での講話と表彰 ・QU調査の2回実施と分析 ・ライフスキル教育の計画的な実施
- ・道徳授業の充実 ・百人一首の暗誦と区大会への参加 ・いじめ防止にかかわる児童会活動
- ・サンクスウィークスの実施

②あいさつの徹底

- ・あいさつボランティア ・「あいさつキャンペーン」の実施

③特別活動の充実

- ・児童の活躍の場を増やす。 ・表現集会の実施各学年1回

④無言清掃の実施

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

○数値目標 平成29年4月区学習定着度調査 通過率 前年度の区平均通過率 77.2%

○実施結果 平成29年4月区学習定着度調査 通過率 86.6%

数値目標(前年度区平均通過率77.2%及び29年度区平均通過率82.2%)を上回る数値目標を達成できた。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を継続して行った結果である。具体的には、SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的に行い、児童個々に対する方策を練らせた。そして授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験、希望者への「漢字検定」「数学検定」等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。こ

これらの手立ての相乗的な結果であると考えます。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。平成30年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、授業時数が増加するため、個別指導の時間の確保も課題となる。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。
花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

・保育園で「数の概念」や「平仮名」、「鉛筆の持ち方」等の研修を実施し、保育士に指導法を学ばせ、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保護者向けに校長が講演を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。

- ・本年度、学区域に新規開設した保育園に積極的に働きかけ、連携を推進した。
- ・給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成23年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し授業改善されている。中学校進学時の区調査の数値向上が課題である。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上達成

一昨年度まで研究を深めた「算数」で、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開が継承され実施することができた。校内研究教科の国語についても、言語活動についての指導法を学び、授業に生かすことができた。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度も継続して指導力向上を図る。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 96% 明るく楽しい学校 99%

Q U調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし、サンクスウィークス等で、児童の自己肯定感が高まってきている。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、環境カルタ、百人一首などの取組を行った。無言清掃も定着している。朝のあいさつ運動は活発に行われ、開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。全校朝礼で多くの表彰を実施し、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。また、東京パラリンピックの種目であるゴールボール応援校として東京都で唯一指定された。区のオリンピック・パラリンピックに向けたオレンジプロジェクトの拠点校としてオランダ選手とも交流した。代表選手との交流や競技体験で、スポーツを通じた「共生社会」について学ぶことができた。また、「リーダーインミー」教育を導入し朝礼などの校長講話で一人一人の児童の心の成長を図った。30年度も一層の心の教育を推進する。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○本校の教育活動にご理解、ご協力いただき心から感謝しています。創立50周年に向けた学校ビジョンNext10yearsを掲げ、これからの花保小学校のあるべき姿を提案し実践してまいりました。本年度は「自立への習慣」をテーマに掲げマネジメントしてきました。足立区学力定着度調査においては、数値的な結果で学力向上の成果をお示しすることができました。また、保護者の皆様が、PTA活動や行事等を通して、毎年毎年より協力的にご支援していただけるようになっていきます。心から感謝申し上げます。このように皆様方が「大人としてのお手本」を見せてくださっている姿が常に花保小学校にあることが、本校の目に見えない校風になっていることを嬉しく思います。本校はまだまだ成長できる学校です。これからも、一人一人の子どもに寄り添い、そのよさと可能性を認め伸ばすことをすべての教育活動の根幹とし、子どもが分かる楽しさと、できる喜びを十分に感じる授業改善を目指してまいります。また、豊かな人間性の育成のために努力して参ります。これからも保護者の皆様、地域の皆様と一緒に子どもたちの成長を考え合い、三者が一体となった教育を進めたいと考えております。そして、保護者の皆様には、花保小学校に通わせていることへの誇りがもてる学校、在校生にとっては学校生活に希望をもち「わくわくする学校」、卒業生にとっては花保小学校を卒業したことへの誇りがもてる学校にいたしましょう。平成30年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
足立区平均通過率と同水準 前年度通過率の向上	区学力調査 平均通過率 28年度 77.2% 29年度 82.1%	区学力調査 86.6%と向上し通過 率の数値目標を達成し た。 区平均数値82.1%を 大きく上回ることがで き、数値達成した。	教員の努力の賜であ る。中休み、給食準備 中、放課後等あらゆる 時間を利用して個別指 導を行った。	◎

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
個の学力状況の 把握・分析・対策	<ul style="list-style-type: none"> 通過率を77.6%でキープさせる。 個の状況を把握し個に応じた指導を通年で行う。 再調査 通過率90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任引継ぎ会議 春季休業中実施 ○学年会で区学力定着度結果表及び個票の分析と対策を定期的に行う。 ○区学力定着度調査の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・4月プレ ・10月再 ・2月プレ ○「MIM」の指導 ○「そだち指導」 ○九九検定の実施と免許証の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○実施結果 平成29年4月区学 習定着度調査 <u>通過率86.6%</u> 数値目標を達成 前年比(28年度) 平均通過率 79.2%から 86.6% 国語の通過率 79.5%から 86.7%へ 算数の通過率 78.9%から 86.5%へ 10月再調査 <u>通過率86.3%</u> 	<p>教員の熱意と努力の賜である。SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会の役割に位置づけ、定期的に管理職と一緒に個々への方策を練らせた。中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。</p>	◎
パワーアップタイム(朝学習) 花保ステップタイム(水曜日) 土曜授業(国語・算数)	<ul style="list-style-type: none"> ・(国語) 漢字ドリル テスト 漢字のまとめワークシート 合格ライン 80点 合格者 80% (算数) 次へのステップ 合格ライン 80点 合格者 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導 ○専科教員のTT授業(土曜授業) ○習熟のための復習授業(土曜授業) ○東京ベーシックドリル 3年生/1、2年 4年生/1、2、3年 5年生/1～4年 6年生/1～5年 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国調査(6年) 国語A・国語B・算数Bで全国平均を上回る。算数Aでは全国平均及び東京都平均を上回った。ABとも都と同水準まで向上した。 ○東京都調査(5年) 国語・社会・算数・のA問題で都平均を上回る。B問題でも国語、社会が上回った。 	<p>管理職による九九検定に加え、漢字検定を実施し賞状や免許証を発行するなどの工夫をしながら基礎・基本の習熟を徹底的に図った。</p> <p>家庭学習を充実させる手立てが必要である。</p>	◎
放課後学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・国語算数の不合格者対象 達成基準 同上 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語算数不合格者の再テスト ○習熟度に見合った放課後個別指導 			○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県式家庭学習の実施 ・月～土 全学級 学年×10分 ・提出率90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習カードの活用 担任の把握 ・秋田県式家庭学習の理解と実施 ・全家庭への周知 ・児童による内容の紹介 	3年生から6年生までの提出率90%以上		○

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続を図る。	幼保中と連携して教育を進め、下記の2項目を達成する。	保育園・幼稚園との連携 相互にやるべきことを実践できた。 花保中学校との連携 中学校の授業改善に寄与できた。	今後ともそれぞれの連携を深めていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
花保中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・花保中学校と共通の目的と組織のもと、教員相互の授業力を高めるための研究授業の実施 ・足立スタンダードに拠る問題解決型の授業展開、思考力を深める授業ができる。 ・体験、交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童、生徒の学力定着度の情報交換 ○調整会議（月1回の実施） ○授業研究の相互実施と研究協議会参加 <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回（内容） 研究授業 6回（小3回 中3回） 全体会2回 指導案検討会2回 ・足立スタンダードに基づいた授業 ○生徒会学校説明会、合奏団交流、赤ペン先生、水泳・陸上コーチ等派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究によって中学校の授業が、問題解決型の授業展開及び思考を深める授業展開になりつつある。 ○小中の教員同士で自主的に教科研究を行い、研究授業につなげていた。 	花保中学校教員の授業力の向上が基礎基本の定着と学力の向上になると考える。 教員の自主的な交流は、小中連携の理想に近付いているといえる。 次年度は特に「外国語」について連携を深めたい。	○
保育園・幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中旬に小学校生活に慣れる。学習規律や生活規律を守ることができる。 ・園児が、平仮名が読め、正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校スタートカリキュラム実施 ○南保木間保育園との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の実施 ・意見、情報交換会の実施 ○連携園との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・給食、図書室体験・1年生との交流集会 ・運動会、音楽会への招待 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児が「平仮名が読める。」「正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける。」ように連携保育園を支援し、できる園児を増加させた。 ○給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。 	9ブロック代表校園としての役目を果たし、お手本となる連携もできた。 連携主任がしっかりと重責を果たしていたことが大きい。 次年度も交流を一層深める。また、入学	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	前が書ける。 ・小学校進学への期待が高まる。			時の能力差解と「学びにつながる生活習慣」を身に付けられるように連携保育園を支援する。	

重点的な取組事項－３ 教師の指導力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力の向上	教師一人一人の指導力の向上（OJTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）	授業についての保護者評価が教員に対して肯定的である。	ベテラン教員の指導、各教員の向上心、校内研究授業によって全教員の授業力が着実に向上した。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
資質向上	都OJTガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・基礎形成期の目標達成	○校長レクチャーの実施（年度当初） ○転入、新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○ガイドライン目標提示 ○若手教員養成塾の実施 10回以上	○年度当初の若手教員による転入教員、新規採用教員研修によって若手は自信を付け、転入者は本校の課題をいち早く理解した。 ○適宜行った管理職による学年面接と個人面接に効果があった。	・ベテランだけでなく、若手教員も重要な役割を担うことで自信を深めた。 ・社会性を身に付けさせる研修が今後も必要である。	○
指導力・授業力の向上	・学年共通指導 ・授業の基本の確立 ・管理職による授業評価 4段階 B以上 全員達成 ・児童の授業満足度90% ・保護者授業参観アンケート「改善を要する」3%以下 ・学校評価項目90%	○足立スタンダードの習得 ○授業力の向上を目標とした研究授業 ○教員相互の授業評価 ○管理職の授業評価と指導、助言随時 ○区教科指導専門員の指導 ○指導教諭の模範授業参観 ○区小研への全員参加 ○学年集会、学年指導	○管理職による授業評価 全員平均B以上達成 ○児童の授業アンケート 満足度90% ○保護者授業参観アンケート「改善を要する」0% ○学校評価 授業評価が90%	・校内研究「国語」によって教材研究が深まり授業改善ができた。 ・算数の授業スタイルを継承することができた。 ・区教科指導専門員が若手教員に的確かつ継続的な指導を行い、授業力改善に大きな成果をあげた。	◎

重点的な取組事項－４ 心の教育の充実

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童一人一人の心の成長	学校評価による数値の向上	道徳授業の充実96% 明るく楽しい学校 97%	大変喜ばしい。 次年度も継続して取り組む。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の調査で、肯定的評価の児童90% 学校評価で「道徳的活動に力を注ぎ、公開授業を行ったり、子どもに思いやりの心や規範意識を育てたりしている。」90% QU調査の再調査 数値改善 	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝会での講話と表彰 QU調査の2回実施と分析 ライフスキル教育の実践 道徳授業の充実 百人一首の暗誦と区大会への参加 いじめ防止にかかわる児童会活動 城北特別支援学校児童との交流 サンクスウィークの実施 サンクスカードプレゼント 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業の充実96% 明るく楽しい学校99% サンクスウィークとして実施。児童の行動評価を行い、それによって規範意識と自己肯定感を高めることができた。 いじめ防止対策委員会を随時実施し機能させた。「いじめアンケート」を実施するなど年間を通して「いじめ防止」の指導を行った。 代表委員会、広報委員会による児童自らの「いじめ防止キャンペーン」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の多くの取組によって児童の非認知スキルは確実に向上している。 「リーダーインミー」教育を導入し教員向けの研修会を実施した。「ライフスキル教育」の発展スキルとして次年度の「心の教育」の柱としたい。 	◎
あいさつの徹底に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価で「子どもが明るく楽しく生活する雰囲気になっている。」95% 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつキャンペーンの実施 保護者、地域への広報活動 あいさつボランティアの活動 開かれた学校づくり協議会の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく楽しい学校99% 有志児童からなるあいさつボランティア隊が活躍した。 	30年度も本校の特色として重点的な取組としたい。	○
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動のねらいをふまえた行事や集会、学級活動などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活躍の機会を増やし、結果を賞賛することで自己肯定感を高める。 表現集会の実施各学年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 一昨年度からの花保小学校愛着大作戦が継続展開された。 表現集会は、負担軽減のため実施しなかった。 	児童の活躍の場を増やしていく。	△
無言清掃	<ul style="list-style-type: none"> 児童全員がねらいを理解して無言清掃を行うことができる。100% 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して実施し定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学級で実施している。 	今後ともねらいを理解させながら実施していく。	○

3. 学校活動全般について

学校での生活規律や学習規律の徹底を教職員全員で取り組み、思いやりのある心を育て学力をしっかりと身につけさせるように真剣に努力した。

具体的には、

- ① 朝会では、指示や号令なく整列させ、表彰の機会を多くする。
- ② 「ＱＵ調査」を年２回実施し、あたたかな人間関係づくりを行う。
- ③ 思いやりのある言葉「ふわふわ言葉」の奨励と「ちくちく言葉」の撲滅する。
「おまえ」とは言わない。
- ④ 名前を呼ぶときは、教員も子どもたち同士も基本的に「さん」付けで行う。
- ⑤ 自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる児童を育てるための「無言清掃」を実施する。
- ⑥ みんなで考えたわたしたちの学校目標と「１７宣言（いいな宣言）」に基く行動を奨励する。
- ⑦ 朝の「あいさつ運動」と子ども同士のあいさつの奨励する。
- ⑧ 廊下歩行 右側歩行を徹底する。 「廊下はね、走っちゃだめだめ 花ほっ子」
- ⑨ 学習により集中させるための花保教室環境スタンダードの全教室展開(ユニバーサルデザイン)する。
- ⑩ 学習にふさわしい服装や身だしなみを心掛ける。
- ⑪ 学習に必要なものだけを机の上に用意する約束を徹底する。(えんぴつ３本と消しゴム１つ)
- ⑫ 朝のスタートを円滑にするための登校時間を設定する。(８時から８時１０分まで)
- ⑬ 区の学力調査結果の分析と基礎学力定着のための復習テストを行う。
- ⑭ 帰りの会後に行う補習を実施する。
- ⑮ 授業力向上のための校内研究を行う。(国語「自分の考えや思いを伝え合う児童の育成」)
- ⑯ 全学級共通の毎日の家庭学習を実施する。
- ⑰ 一斉放送の際に全児童が全行動を停止して放送を聞く態度を確立する。

など色々と取り組んでいる。保護者に対しては、「自立への習慣化」をテーマにマネジメントすることを年度当初に知らせた。保護者の大多数は学校の現状に満足されていて、協力的である。

児童の主体的な活動である「花保小学校愛着大作戦」が代表委員会によって継続されている。児童が考えた学校「わたしたちの学校目標」の達成を目指し、具体的な手立てである「１７宣言（いいな宣言）」をこれからも進めていく。

まだまだのところもあるが、これらの教育活動を通して一人一人の児童は成長し、数値では測れない全体としての学校力も向上していると考えている。さらによりよい学校にするために平成３０年度の「花保小学校」を構想していく。